

新年おめでとうございます

幸福な健康の秘訣

百四歳…なめらかに

生き抜く池田チヨノ様



池田チヨノ様は明治三十七年十二月十日生まれの一〇四歳。現在は上越市昭和二丁目に御長男の池田十六様(上越植物友の会理事)ご夫婦の三人暮らしです。定期的な医院への通院もなく、従って薬も飲んでいません。これまで大病に罹ったこともなく、身の回りのことは自分で行なって、杖や歩行器に頼らず歩いて近所に行っています。数年前の百歳まで近所のお寺へ草取りに行っていたという極めて健康優良高齢者です。加えてこんな

幸福な生き方をしているお年寄りにお会いしたこともございません。小春日和の十一月末日、ご自宅の庭に咲く、ツワブキの黄色い花と玄関の

●かんしゃくの“く”を

取つてごらん

チヨノ様は五人兄弟の長女、兄弟も総べて亡くなりました。現超高市の上馬場に二十四歳で嫁ぎ、四十代で夫に死別。それからは二人の子どもを育てるため農業一筋、ひとりやぎの乳やたまごを売ったり、泥田を耕す毎日でありました。必死で働くチヨノ様はその頃、体力を育んでいたのかもしれません。チヨノ様は言

ピンクが賑やかなシャコバサボテンに迎えられ、私どもは、その長生きと幸福な健康がどこに起因しているのか、お話を聞きました。

「馬場にいた若い頃、仏様の心“仏縁”を父親から頂いた。それが感謝の心を育て、神仏を敬愛する今に繋がります。阿弥陀様信仰から始まり今は、親鸞会(本部は富山)という講和会に月一回参加しています。」

親鸞会へ行くだけで、そこで両手を合わせ拝むだけで心が休まる、とも

おっしゃいました。「かんしゃくはダメ。苦しみ、苦勞の“く”を取つてごらん。ほら、感謝になるじゃないか。」感謝の心が自然に手を合わせてくれるのさ……

●私は“梅干”……

耐えてきて得た長生き

そこで、子供の頃のお正月について何か楽しかったことはなかったか伺いました。

「馬場は新井の山ん中だから正月はお雑煮が楽しみだけ。今のようにお年玉もなかったよ。そうだが、昔の歌があった。(以下に拍子を取りながら『梅干の歌』を歌って頂

にこやかな百四年の笑いを頬に浮かべました。「こうしてご飯を頂くのも、長生きするのも、死ぬことすら極楽と思っていればいい。ありがたいことです」

梅干の歌

二月三月花盛り
うぐいす鳴いた春の日の
楽しいときも夢のうち
五月六月実がなれば
枝からふるい落とされ
近所の町へ売り出され
何十何合量り売り
もとより酸っぱいこの体
塩に漬かって辛くなる
紫蘇に染まって赤くなる
七月八月暑いころ
三日三晩の土用干し

誕生日と「ふれあい昼食会」が重なる

12月10日

その十日後、お住まいの町内会主催で高齢

者の皆様のため年間五行われているという「ふれあい昼食会」がありました。参加者は男女ほ



豪華な料理を目の前に昼食会が始まります。正面はボランティアの主婦の皆さん。

この日は丁度チヨノ様の誕生日。偶然とはいえ楽しいことに輪をかけた行事となりました。勿論町内のボランティアの主婦が腕によりをかけた料理を作っておられました。

例えば辛いことばかり皺はよつても若い気で小さい君らの仲間入り運動会にもついてゆくまして戦のそのときは無くてはならないこの私
終わりの……
と、最後は掛け声で終わりました。つづいて、『花暦』と『草津節』と披露してくださいましたが、その合間に昔の生活を語ってくださいました。「親父から金など持たせて貰ったこともねえ。髪なども結ったこともねえ。春は大根飯と夏はバク飯(麦飯)。親父が死んでから田んぼをやつて暮らしを立てた。鍬と鎌持つてベトかまってきただけださ。なんも知らねえのさ」

新年あけましておめでとうございます

さくらメディカル事業所

紹介

上越地区「介護部」

介護を「人」と「物」で支える。当社は「地域の人々のよりよい生活を実現するために、福祉用具を普及させる」ことを大切な役割としています。また、ご自宅での生活を総合的に支えることができるように、平成十二年の介護保険の導入に合わせて訪問介護サービスや訪問入浴介護サービスを開始しました。

介護を「人」で支える部門である「介護部」は、上越地区（上越市・妙高市・糸魚川市）において、高田と直江津、あらいの計3拠点で、居宅介護支援（3事業所）と訪問介護（2事業所）、訪問入浴介護の計6事業所でサービスを提供しています。

「手と手のやさしさサービス」をモットーに、一人ひとりが介護の専門職として研鑽を重ね、人のやさしさを確かな技術で実現することを目指しています。

手と手のやさしさサービスに
地域の人々のよりよい生活を実現



去年の忘年会で直江津訪問介護のにぎやかな余興

直江津介護センター



〒942-0061
上越市春日新田2-6-25
TEL025-539-0866（直江津訪問介護）
TEL025-539-0855（直江津居宅介護）

ホームヘルパーが十人に

一昨年の十一月一日に開設しまし

た直江津訪問介護事業所は、約一年が過ぎました。当初は、高田訪問介護事業所より直江津方面を担当する七人が直江津に移

直江津訪問介護事業所

り、不安ばかりの中ではじまりました。開設時には、ご利用者様やご家族様などにご迷惑をおかけしたこともありましたが、皆さまのご理解とあたたかいご声援をいただき、

桜のごとく明るくエネルギーに

直江津居宅介護支援事業所

が目印です。当事業所は、毎日六人のケアマネジャーと一人の事務員が明るく、パワ

とても感謝しております。開設一周年が過ぎてようやく一人歩きができるようになり、現在はホームヘルパーが十人に増えて、事務所も手狭になってきました。

高田介護センター



〒943-0153
上越市鴨島2-1-9
TEL025-522-8533（高田居宅介護）
TEL025-522-8739（高田訪問介護）

高田居宅介護
支援事業所

高田居宅支援介護支援事業所は、女性六名と男性一名の介護支援専門員（ケアマネジャー）の事業所です。三十代から五十代と幅広い年齢層で、

『よかった』と思われるケアを

コンビネーションは抜群。ご利用者様からは、「ケアマネジャー」とか「へマネージャー」と呼ばれる時もあり、毎日戸惑いが隠せません。

ご利用者様は三者三様で、様々な状況の中で暮らしておられます。私たちは、ご利用者様本位の質の高いケアプランをご



提供し、「あなたがわたしの担当者で良かった」を思っていたきたいという気持ちで、お手伝いをさせていただいています。これからも真剣にそして真摯な姿勢で取り組んでいきたいと考えています。ご利用者様あつてのケアマネジャーです。駐車場完備ですので、是非ともお立ち寄り下さい。

合言葉は「サービス・No.1事業所」

高田訪問介護事業所

「いってきます」「ただいま」……。

「〇〇さん、最近尿量が多いし、パットの当て方を変えたほうがいいよね」「□□さん、食事がむせやすくなっているの



で、食べやすいようにトロミ剤の使用をご家族に相談しようか」……。

高田訪問介護事業所に一歩足を踏み入れると、そこは右記のようにご利用者様の情報交換を中心とした真剣な会話が飛び交い、とても賑やかな事業所です。

昨年十二月には、あら



「全開です。あまりにもエネルギーを燃やし過ぎ

て、「お隣の消防署から放水されるのでは…」と心配するほど、活気と熱気にあふれる事業所です。平成十九年三月に二人ではじまった事業所ですが、地域の皆さまに覚えていただき、ご利用者様も増えて、ケアマネジャーも増員、現在六人です。平成二十年十一月には、同じ建物の中に訪問介護事業所が開設し、さらにパワーをアップしました。

■あらい介護センター



〒944 - 0013
妙高市高柳1 - 68 - 3
TEL0255 - 70 - 6030

あらい居宅介護 支援事業所

寒さが厳しい季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。
あらい居宅介護支援事

一周年を『風林火山』で駆け巡る

業所は、越後富士ともいわれる妙高山がくっきり眺められる妙高市高柳にあります。
昨年十一月に一周年を迎えたばかりの若い事業所ですが、職員の顔ぶれは、福祉業界に携わり十年以上というベテラン揃いです。担当している地域は旧新井市を中心に、妙高高原や高田・直江津方面まで、とても広範囲であることも特徴です。
「風林火山」で表現できるとは、職員は、
①「風」の如く迅速な対応し、
②「林」の如くご利用者様の話を静にお聞きし、
③「火」の如くご要望に対して検討し、
④「山」の如くどんな難題にも取り組んでいます。
天使のような微笑の女性二名と仏のようにあ



たたかい男性二名が、今まで以上の力を発揮して、在宅生活を支援します。

シヨップ便利用品ご案内

温かく、やさしい湯たんぽ

「エエ湯くゆ・愛」

サイズ：L

定価：二、五〇〇円(税込)

●使い方が「やさしい」

電源コードを本体に差して充電するだけの簡単操作。めんどろな水の入替えなどが不要です。

また、専用のカバーもついていて、買ったその日からすぐに使えます。

●お財布に「やさしい」

省エネ設計で約二十五分の充電で約八時間ご使用できます。一度の充電の電気代も約二円と経済的！

●お肌にも「やさしい」

本体はナイロン製で肌触りもとってもソフトで、心地よさ抜群！

また、乾燥肌が気になる冬季にこそ、強力な暖房器具とは異なって、肌への負担が少なく、快適にご使用いただけます。



■訪問入浴・物流センター



〒943 - 0125
上越市今池94 - 3
TEL025 - 521 - 3773

ひと時のやすらぎを

訪問入浴 介護事業所

私たち訪問入浴介護事業所は、福祉用具のレンタル品を消毒・保管している物流センターと同じ

場所にあります。

「訪問入浴介護サービス」とは、ご自分ではご自宅のお風呂に入るのが困難な方などのお宅に、入浴車で訪問し、寝室などのお部屋に組立式の浴槽

を設置して、入浴していただくサービスです。

平成十二年の介護保険の導入に合わせて、数名のスタッフとたった一台の入浴車で始まったサービスも、年々ご依頼が増えて、現在ではスタッフ二十数名、入浴車八台となりました。

サービス提供地域は、地元の上越市をはじめ隣接する妙高市や糸魚川市までとなっています。

私たちのモットーは「ひと時のやすらぎのご提供」です。明るく賑や



かな雰囲気の中で、楽しく仕事をしています。今年も皆さまからご満足いただけるように努力し続けますので、どうぞよろしく願います。

さくらメディカル（株）設立二十周年記念大会講演

介護保険と福祉用具の今後の動向 （抜粋）

講師 株式会社シルバー産業新聞社 安田勝紀編集長

当社の設立二十周年記念大会（平成二十年九月二十日・湯沢のNASUPAニユーオータニ）では、前号で紹介しましたヒューマン・ケア・ネットワーク（※安心感のある快適な福祉用具の提案・提供によって地域に根ざした明るい活力ある高齢社会の実現を目指す事業所の全国的なネットワーク）の畔上加代子会長と、高齢社会において多角的な情報提供を通じてシルバー産業界の一助を目指して発行されている「シルバー産業新聞」の安田勝紀編集長による記念講演がありました。今号では、安田編集長の講演を抜粋で掲載します。

「使いたくてもサービスがない」離島の深刻な人手不足と福祉用具の役割

安田編集長の講演では「介護保険と福祉用具の今後」をテーマに、二〇〇六年に行なわれた介護保険の改正による影響と現状及び今後の動向にはじまり、福祉用具に今後求められることなどとても幅広い内容でした。今号では、その中でも特に、これから私たちの身近でも起こり得ることを紹介します。



パソコンのデータを画面に映して講演する安田編集長。日本の福祉行政のひずみをつく内容はジャーナリスト安田氏の独壇上。

八丈島の介護保険

八丈島では在宅サービスの利用者の費用額が支給限度額の約二割であり、

の自己負担（一割負担）への負担感もありますが、最大の理由は「使いたくてもサービスがない」ことです。現地でお話しを伺うと、「ヘルパーさんがいない」という現実を目の当たりにしました。

例えば、ヘルパーさんに一時間の時間ができると、その一時間を近所のAさんとBさんに三十分ずつに分けてサービスを提供するというようなことも行なわれています。

このような深刻な人手不足は、決して八丈島だけの問題ではなく、近い将来の日本全体の縮図を映し出しているともいえます。サービスを利用し

たくても、お金があつ

自立を支える福祉用具

鹿兒島県十島村（トカラ列島）という過疎化の激しい離島では、介護保険で利用できる唯一のサービスが、福祉用具のレンタルとなっています。

バスやタクシーなどの公共交通がないトカラ列島では、歩行を支援する福祉用具などが島民の自立を支えており、福祉用具が生活に欠かせないものの一つになっています。

今後ますます深刻となる人手不足やそれに伴ってサービスが利用しにくくなるかもしれない社会の到来において、福祉用具の役割は今まで以上に大きくなるといえます。



30年のベテラン、日本福祉協会と、なじみの利用者の別々。別々には八丈島に詳しく小学校で教えたつもり。

（写真1）背上げで少し起こし気味にして楽な姿勢を保持する

でも、「サービスがない」、「ヘルパーがいない」ということが現実になるかもしれません。

このような問題を福祉用具の視点で考えると、福祉用具を上手に使うことによって、自宅での生活を少しでもカバーできる部分があるかもしれません。そして、福祉用具の事業所にはこの点をしっかりと勉強して取り組んでほしいと期待します。

ただのマンガではない。といって認知症から来る問題提起としての絵解き参考書でもない。筆者の三好春樹さんが序文「はじめに」のタイトルに選んだ「人と人との間のドラマ」という言葉が当を得ているように感じるのがあるが、どうだろうか。人と人の間……人が一たび動くとか何かしら結果が生じ、それにもうひとり人間が加わることに

てもう一つの結果が一人歩きする。

筆者が述べている。

「この本では、特養ホーム、ショートステイ、デ

三好春樹・作 / 市川リントロウ・マンガ
介護がラクになる

新刊紹介

マンガ認知症ケア

イサービス、訪問介護のスタッフたちが、管理主

立派なケアの武器になっている」
筆者にとって最後の「武器」が一番述べたい



ーマニティを疑わざるを得ない。ここは少しへりくだって「道具」とでもしたいが……。

真意であろう。だが、ここは戦場ではない。戦場と解してものを考えているとすると、作者のヒューマンであることもまた、

三好さんも、上越市出身の市川さんも現役の介護士。三好さんは市川さんの現場から来る密度の濃い絵に同感したという。ここにも人間臭さが漂っている。

講談社刊 A5判 本体1400円

トカラ列島の介護保険



自立を支える福祉用具。鹿兒島県トカラ列島では福祉用具が唯一の介護サービス



取り壊された離島・過疎地の介護保険サービス。鹿兒島県十島村（トカラ列島）では、福祉用具レンタルが島民唯一のサービス。